

はじめに

平成 29 年度は、団塊の世代が一斉に 75 歳以上となる 2025 年を目前に控え、地域医療構想や、地域包括ケアシステムの構築に向けて、医療圏単位での取り組みが本格化してきた年でした。

当院では、平成 29 年 10 月に開業医や訪問看護師、ケアマネージャーなどの在宅に関わる医療・介護従事者との連携を強化するため、「箕面市立病院地域医療・福祉連絡会」を立ち上げました。これにより、入院時や退院時に必要な情報が互いに提供できる仕組みを作るなど、今後の在宅移行の流れに対応した体制づくりを行っていきます。

一方で、平成 29 年 8 月に厚生労働省に「医師の働き方改革に関する検討会」が設置され、平成 30 年 2 月に「中間的な論点整理」と「医師の労働時間短縮に向けた緊急的な取組」が発表されました。今後、平成 30 年度末を目途に最終報告が出される予定です。緊急的な取組としては、労働時間管理の適正化に向けた取組や業務の移管の推進などが求められています。

当院ではこれまで、出退勤システムでの労働時間把握や医師事務作業補助の導入による負担軽減を図ってきましたが、平成 28 年末からは、交替制勤務を導入し、夜勤明けは振替休日扱いで帰れる環境を作るとともに、平成 29 年度からは、休日夜間の救急外来に外部の応援医を確保することで、夜勤負担の軽減を図りました。今後も引き続き、働きやすい職場づくりに努めていきます。

市立病院は、昭和 56 年 7 月に開院して以来 36 年が経過し、老朽化が進んでいることから、平成 28 年度から 29 年度にかけて実施した「リニューアル調査検討業務委託」の結果を受け、建替の方針を決定し、平成 29 年 12 月開催の市議会において、箕面市船場東への移転建替が決定しました。新病院建設予定地は、延伸工事が進む北大阪急行線の「箕面船場阪大前駅」に近く、アクセス性が今より向上するため、より多くの患者さまにご利用頂けるものと確信しています。これから、基本計画の策定により新病院の規模や医療機能を決定し、2024 年の新病院オープンに向けて準備を進めていきます。

経営面では、平成 29 年 3 月に策定した「新・市立病院改革プラン」に基づき、経営改革の取り組みを進めてまいりましたが、病床稼働率は 90.3%と目標を達成できたものの、実入院患者数が前年度を下回ったことから、8 億 8 千 8 百万円の赤字となり、前年度から 1 億 7 千万円の収支改善に留まりました。

引き続き、将来にわたって地域に必要とされる、患者さまや市民の皆様に信頼され、愛される病院となるよう、改革を進めてまいります。

2018 年（平成 30 年）7 月

箕面市病院事業管理者 重松 剛
箕面市立病院総長 田村 信司